

**JASDAQ**

平成 29 年 1 月 17 日

各 位

会 社 名 株式会社テリロジー  
代 表 者 名 代表取締役社長 津吹 憲男  
(コード番号 3356 東証 JASDAQ 市場)  
問 合 せ 先  
役 職 ・ 氏 名 取締役副社長 阿部 昭彦  
電 話 03-3237-3291

## 株式会社フィスコ並びに株式会社フィスコ IR とのセキュリティ商材の共同マーケティングにかかる 業務提携に関するお知らせ

当社は、平成29年1月17日開催の取締役会において、株式会社フィスコ（JASDAQ 上場、証券コード「3807」、本社：大阪府岸和田市、代表取締役社長：狩野仁志、以下、「フィスコ」）、並びに株式会社フィスコ IR（本社：大阪府岸和田市、代表取締役社長：佐藤元紀、「以下、フィスコ IR」）とセキュリティ商材の共同マーケティングについての業務提携の締結を行うことを決議いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 業務提携の理由

当社は、設立以来、欧米諸国において開発された最先端のネットワークセキュリティ分野の製品及びソリューションを国内大手企業に提供してまいりました。近年においては、自社開発を促進し、高速でのパケット・キャプチャ、パケットの保存及びその復元を可能とした高速キャプチャリングソフトウェア「Momentum」の開発・提供や、米国 Tempered Networks 社と独占販売契約を結び、ステルスネットワーク化を実現することでハッカーからの不正なアクセスや情報漏えいを防ぐスイッチ製品の販売及びイスラエルの KEELA 社と販売代理店契約を結び、DarkNet<sup>\*1</sup>でやり取りされるハッカーのコミュニティをモニタリングし、企業にとって脅威となる情報を検知・収集し、分析結果を提供するコンサルティングサービスなど、ネットワークゲートウェイからエンドポイントまでをカバーするセキュリティマネジメントサービスを展開しております。

\*1 DarkNet とは、ユーザーに匿名性（オープン Web では存在しない）を提供するために構築されたパラレルネットワークのことです。

一方、フィスコグループはフィスコおよびフィスコ IR の他、同社の連結子会社である株式会社ネクスグループ（JASDAQ 上場、証券コード「6634」、本社：岩手県花巻市、代表取締役：秋山 司、以下「ネクスグループ」）、同じく株式会社 SJI（JASDAQ 上場、証券コード「2315」、本社：東京都目黒区、代表取締役社長：牛 雨、以下「SJI」）などのグループ企業を擁しています。

フィスコは、金融機関、インターネット金融商品取扱業者ならびに機関投資家だけでなく、フィスコ WEB・アプリを通じた投資家とのネットワークを構築し、ヤフーをはじめとするポータルサイトへの金融情報を個人投資家にも提供しており、インターネット空間における金融情報配信業者として圧倒的な知名度を誇っています。また、フィスコ IR は、創業以来一貫して、上場企業の IR 活動を総合的に支援して参りました。これまで培ってきた確かな実績と信頼を誇る、投資家と企業 IR を齟齬無くつなぐ IR 実務支援会社です。両者は現在、約 500 社（全上場企業の 14%超）に及ぶクライアントネットワークを有しており、金融情報配信サービスや IR 支援サービス以外にも、クライアントの企業価値向上に資する協業可能性あるパートナーとの業務提携支援などを含め、多様にサポートしています。フィスコグループでは、投資向け AI の開発、仮想通貨取引所の運営をてがけていることに加え、ネクスグループは IoT 技術を保持しています。また、SJI はビックデータ解析を含む AI 開発の体系的なバックアップに加え、ブロックチェーンへの豊富

な知見を有しています。

当社は、フィスコグループの上場企業クライアントが抱えるシステムセキュリティに関する課題やネットワーク環境の強化に関する周辺ニーズを把握することで、よりマーケットニーズに沿った、新製品及び新サービスの提供が可能になります。また、共同マーケティングにより、両社のマーケティングコストの低下を実現するとともに、そこから得られた顧客ニーズを共有することで、さらなるサービスのラインアップを拡充することが可能となり、両社の顧客に対するサービス向上が期待できます。

なお、いま世界では、蒸気による第1次産業革命、電気による第2次産業革命、ITによる第3次産業革命を経て、第4次産業革命を迎えつつあります。第4次産業革命では車や家電などすべてのものがインターネットに接続され、そのビッグデータの高度な解析が可能となると言われています。AIやブロックチェーンの発展により、現在よりはるかに効率化・省力化された未来が予測され、それらが半ば自律的に現実社会を動かすこととなるでしょう。現実世界（Physical Part）の制御対象のさまざまな状態を数値化し、仮想世界（Cyber Part）において定量的に分析することで新しい知見を引き出し、さらに現実世界へフィードバック及び制御する Cyber-Physical System が実現されることとなります。

そのような世界においては、現実世界のビックデータをIoT技術によって保持、収集する能力、それらを仮想世界（Cyber Part）においてAIやブロックチェーンによって管理、分析する能力が重要になってきます。また、多くのプライベートな情報を含むビックデータをやり取りする Cyber-Physical System においては、全体を通じてセキュリティが非常に重要な技術となってきます。

我が国では、2014年11月にサイバーセキュリティ基本法が成立し、国や各機関などの責務や戦略、基本的施策が明確化されましたが、内部犯行による情報漏えいや標的型サイバー攻撃の増加など、国内の上場会社にとって、セキュリティ対策の品質向上とコスト負担の軽減は、企業価値を高める上での大きな課題となっていると言えます。このような状況下、テリロジー、フィスコ、フィスコ IR は、セキュリティ商材の共同マーケティングについて以下のような取り組みを推進いたします。

## 2. 業務提携の内容

- ① フィスコ、フィスコ IR のクライアントネットワークを活かし、テリロジーが有する高速パケット・キャプチャ、パケット保存及び復元を可能とした「Momentum」などの高度なセキュリティ商材をフィスコ IR が法人向けに幅広く提案
- ② テリロジーが立脚する国内セキュリティ市場にてクライアント基盤を有し、かつセキュリティ分野のソリューション開発に強みがあるパートナーとテリロジーの業務提携支援をフィスコ IR が提案
- ③ これまでテリロジーが培ってきた、ステルスネットワーク化の実現や企業にとって脅威となるハッカーの情報を検知・収集し、分析結果を提供するコンサルティングサービスなどの技術力や経験を活かし、フィスコ、フィスコ IR と新しいソリューション（あるいは、ビジネスモデル）の共同研究

なお、今回の共同マーケティングでは、上記を軸に、クライアント、フィスコ、フィスコ IR、そしてテリロジーの中長期的な企業価値の向上や持続的な成長を実現する可能性を検証して参ります。

## 3. 業務提携の相手先の概要

### ① 業務提携先企業

(1) 名称	株式会社フィスコ
(2) 所在地	大阪府岸和田市荒木町二丁目 18 番 15 号
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 狩野 仁志
(4) 事業の内容	投資情報配信事業
(5) 資本金	1,235 百万円（平成 28 年 6 月 30 日現在）
(6) 設立年月日	平成 7 年 5 月 15 日
(7) 大株主および持株比率	シークエッジ インベストメント インターナショナル リミテッド (38.03%) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (10.19%) 日本証券金融株式会社 (2.42%)

		(平成 28 年 6 月 30 日現在)		
(8) 上場会社と当該会社の関係	資本関係	該当事項はありません。		
	人的関係	該当事項はありません。		
	取引関係	該当事項はありません。		
	関連当事者への 該当状況	該当事項はありません。		
(9) 最近 3 年間の経営成績および財政状態		(単位：百万円)		
	決算期	平成 25 年 12 月期	平成 26 年 12 月期	平成 27 年 12 月期
純資産		3,741	4,890	5,670
総資産		6,124	10,615	16,910
1 株当たり純資産 (円)		70.40	87.82	83.83
売上高		6,681	8,430	10,206
営業利益		354	323	△554
経常利益		580	903	△952
当期純利益		558	730	△143
1 株当たり当期純利益 (円)		16.06	20.55	△3.94
1 株当たり配当金		17.00	3.00	3.00

## ② 業務提携先企業

(1) 名称	株式会社フィスコ IR			
(2) 所在地	大阪府岸和田市荒木町二丁目 18 番 15 号			
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 佐藤 元紀			
(4) 事業の内容	IR 実務支援サービスの提供			
(5) 資本金	89 百万円 (平成 27 年 12 月 31 日現在)			
(6) 設立年月日	昭和 43 年 8 月 9 日			
(7) 大株主および特株比率	株式会社フィスコ (95.89%) (平成 27 年 12 月 31 日現在)			
(8) 上場会社と当該会社の関係	資本関係	該当事項はありません。		
	人的関係	該当事項はありません。		
	取引関係	該当事項はありません。		
	関連当事者への 該当状況	該当事項はありません。		
(9) 最近 3 年間の経営成績および財政状態		(単位：百万円)		
	決算期	平成 26 年 10 月期	平成 26 年 12 月期	平成 27 年 12 月期
純資産		231	237	475
総資産		1,065	1,104	1,036
1 株当たり純資産 (円)		679.91	697.46	390.59
売上高		610	44	745
営業利益		△17	△52	114
経常利益		△34	△51	125
当期純利益		148	6	157
1 株当たり当期純利益 (円)		436.78	17.95	165.85
1 株当たり配当金		—	—	—

(注) 平成 26 年 12 月期は決算月変更のため、11 月～12 月の変則決算です。

#### 4. 日程

(1) 取締役会決議日	平成29年1月17日
(2) 業務提携契約締結日	平成29年1月17日
(3) 業務提携開始日	平成29年1月17日

#### 5. 今後の見通し

本件が当社の業績に与える影響は、現段階においては軽微であると考えておりますが、今後、開示の必要性が生じた際には、その内容を速やかに開示いたします。

(参考)

##### ○テリロジーとフィスコグループの協業について

平成29年1月17日付「株式会社ネクスグループとの資本業務提携、株式の売出し、主要株主の異動に関するお知らせ」のとおり、当社は、株式会社ネクスグループとの資本業務提携を契機に、株式会社ネクスグループの親会社である株式会社フィスコ（JASDAQ 上場、証券コード「3807」、本社：大阪府岸和田市、代表取締役社長：狩野仁志）および株式会社フィスコ IR、株式会社フィスコ仮想通貨取引所、株式会社 S J I と各業務提携と協業を推進いたします。詳細は別紙「テリロジーとフィスコグループの協業」をご参照ください。

以 上

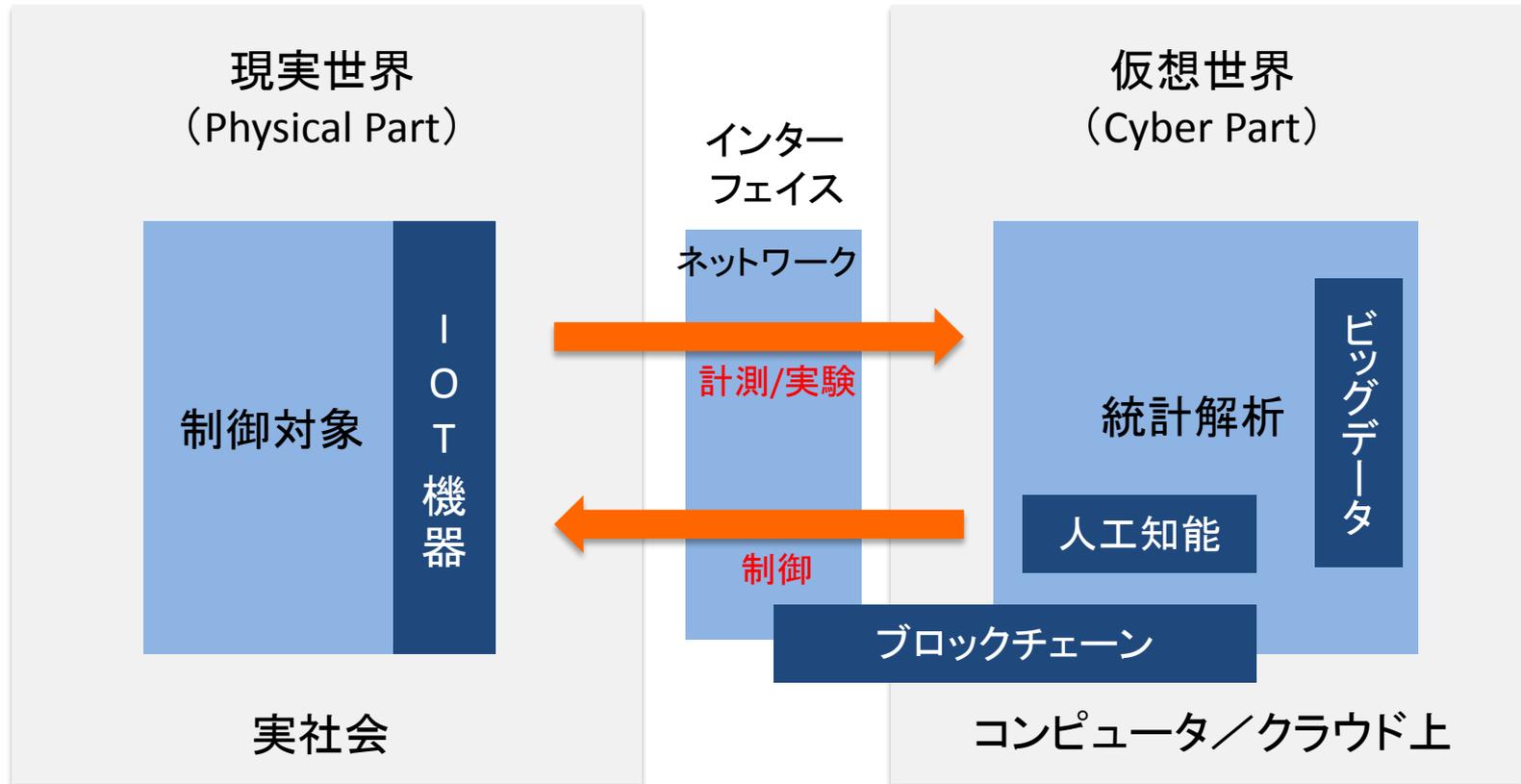
<別紙>

テロロジーとフィスコグループの協業

# 第4次産業革命の到来に向けて Cyber-Physical Systemの実現

現実世界の制御対象のさまざまな状態を数値化し、仮想世界において定量的に分析することで新しい知見を引き出し、さらに現実世界へフィードバック及び制御する

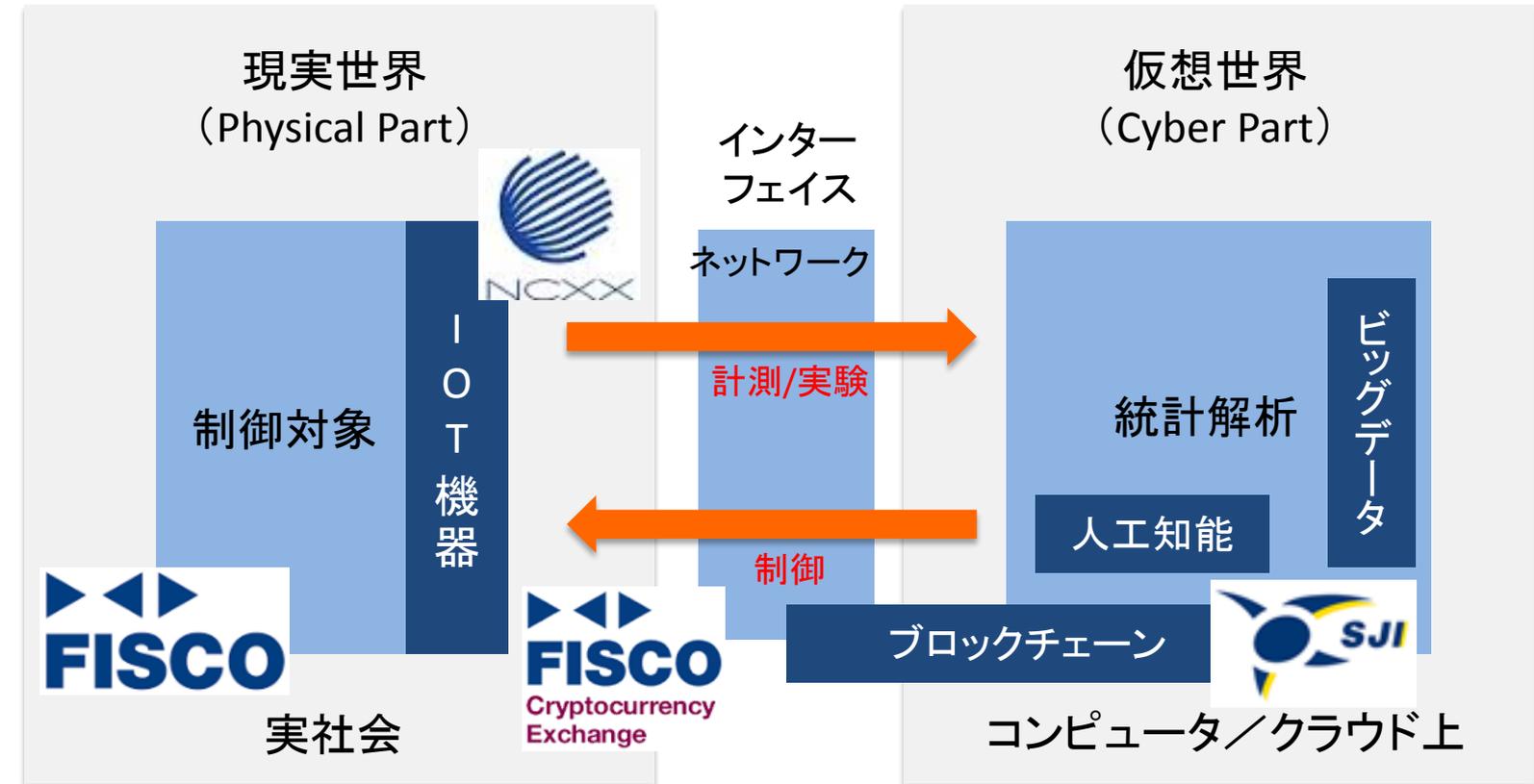
Cyber-Physical System (CPS概念図)



# Cyber-Physical Systemにおけるグループ各社のポジション

フィスコグループ全体でCyber-Physical Systemを実現するにあたり、テリロジー社は全域にわたってセキュリティを強固なものとする

Cyber-Physical System (CPS概念図)



全体を通じてセキュリティは非常に重要



# フィスコグループとテリロジーの協業

ネクスグループによるテリロジー資本参加を契機に、フィスコグループ4社と業務提携と協業を推進

## 資本提携内容

- ネクスグループによるテリロジー株式14.9%取得
- 加えて、マネジメント層の派遣を検討
  - ネクスグループからテリロジー社への取締役2名の派遣の検討

## 資本提携内容



## グループ各社との業務提携内容



### フィスコ × テリロジー:

フィスコ及びフィスコIRの企業ネットワークを活かしてセキュリティ製品の共同マーケティングやクロスセルを実行します

### フィスコ仮想通貨取引所 × テリロジー:

他社取引所にはない強固なセキュリティを実現するとともに当該システムの外販を行います

### ネクスグループ × テリロジー:

ネクスIoT機器に高度なセキュリティを実装するとともに、IoT機器間および機器とクラウド間での通信セキュリティを高める戦略商品の開発を行います

### SJI × テリロジー:

テリロジーのセキュリティ製品にSJIの持つブロックチェーン技術を適用した高付加価値製品を共同開発をします。また、Momentum(テリロジー製品)のソフトウェア開発の共同事業化を推進し、効率化とシナジーを追求します

株式会社SJIは、平成29年1月開催予定の第28期定時株主総会で「定款の一部変更の件」が承認されることを条件として、「株式会社カイカ」に商号変更される予定です